

今を輝く人に聞く

18

まちひと ZOOM!!

50年の節目を迎えた市民総合体育大会（市民総体）。17地区の対抗戦で、2月のスキー競技を皮切りに8か月間で全16種目が行われます。その最終種目となる陸上競技が、9月9日(日)に市営陸上競技場で開催されます。今回は、陸上競技アナウンサーとして、市民総体のアナウンスを務める佐藤勇さんに話を聞きました。

佐藤さんは、アナウンスを始めたのもちょうど50年前だったと話します。「20歳で審判員資格を取得し、3年後にアナウンス（当時は通告員）をやってみないかと声を掛けられました」。その後様々な大会で経験を重ね、市民総体でも長年に渡りアナウンスを務めています。「子どもが多かった時は、各地区のプラカードを掲げ、団長を先頭にオリンピックのようにトラックを行進する華々しい時代もありました」と佐藤さんは振り返ります。

そんな佐藤さんにアナウンスで気を付けていることを聞きました。「話す際は、名前も数字も語尾を下げないことが大切です。選手やそれを応援する皆さんが、明るい気持ちになることを常に意

陸上競技で長年アナウンサーを務める

佐藤 勇 さん（桜木町）

[Profile] 日本陸上競技連盟審判員のほか、県や市のスキー連盟の顧問も務める。春から秋にかけては、笹野地区の工房で蔓細工にも励む。

市民総体50年の節目をアナウンスで盛り上げる



識しています」。佐藤さんは、審判員も含め年間40日程度の大会運営に携わっており、現在は後進の育成にも力を入れていると言います。

最後に、市民総体を前にした佐藤さんに意気込みを聞きました。「地区の威信を懸けた最後の種目ですから、毎年白熱します。100年の歩みに向け盛り上がるよう、頑張りたいと思います」。節目の大会で優勝するのはどの地区か。佐藤さんのアナウンスが花を添える中、激闘が繰り広げられます。

暑い日が続きました。全国各地で40度を超えた地域も多く、熱中症などで体調を崩された方も多かったのではないのでしょうか。

また、各地で局地的な豪雨があり、県内でも最上地方や庄内地方で浸水や土砂崩れなどの被害が発生しました。被害にあわれた皆様に謹んでお見舞い申し上げます。米沢はこうした災害が少ない地域に思われるかもしれませんが、51年前には羽越水害も起こりました。対岸の火事とはせず、

おしよしな よねざわ



今月のはなし

暑い夏、鷹山公の雨乞いを偲んで

防災意識を高め、災害に備える取り組みを強化しなければなりません。

それにしても雨が降りませぬね。8月上旬から節水のご協力を広報し、対策として市営プールと小学校プールの使用を中止しました。夏休み中にプールを利用できずご迷惑をお掛けしました。水源の水窪ダム、綱木川ダムの貯水率は8月20日時点で20%を超えてはいませんが、水不足は深刻さを増し、農業用水、工業用水、水道水の供給に影響が開始しました。このまま雨が降らない状況が続きますと、水圧を下げた状態での給水となり、水が出にくくなってしまふことが予想されます。

生活をしていく上で水は欠かすことができません。8月21日現在、台風の影響も心配されますが、鷹山公の雨乞いが偲ばれる今、米沢にとつて恵みの雨になればと心から願います。

米沢市長 中川 勝